

学校規模適正化について意見を交わした総合教育会議＝25日、福井市役所



小学校の規模適正化へ

年度内に課題整理

市長

本年度第1回福井市総合教育会議が25日、同市役所で開かれた。東村新一市長は学校の規模適正化について、校舎の老朽化問題を踏まえ「議論しなければいけない時期に来ている」と説明。本年度中に各学校ごとに課題や対応策を整理したい考えを示した。

本年度第1回福井市総合教育会議が25日、同市役所で開かれた。東村新一市長は学校の規模適正化について、校舎の老朽化問題を踏まえ「議論しなければいけない時期に来ている」と説明。本年度中に各学校ごとに課題や対応策を整理したい考えを示した。

会議には東村市長、吉川雄二教育長と教育委員4人が出席した。学校規模適正化について委員からは「各学校ごとに課題がある。早急に結論が出るものではない」「10年かかるかもしれない」「住民が課題として意識するよう丁寧な説明、下積みが必要」などの

の声が上がった。これに対し東村市長は、学校の老朽化に言及し「時間はあるよつてないのが現状。適正化にはいろいろな意見があるが、何もしないと老朽化だけが進んでしまつ」と指摘。老朽化を踏まえた上での学校規模適正化への具体的な課題、対応策を、本年度中に各小学校ごとに整理するよう教育委員会に指示した。統合などの具体的な話が出てきた場合の対応について、委員から問われた市の事務局は、時期は未定とした上で「検討委員会をつくる計画がある」と説明した。

このほか児童クラブと放課後子ども教室の連携についても協議した。次回会合は来年2月から3月に開く。

(川上桂)